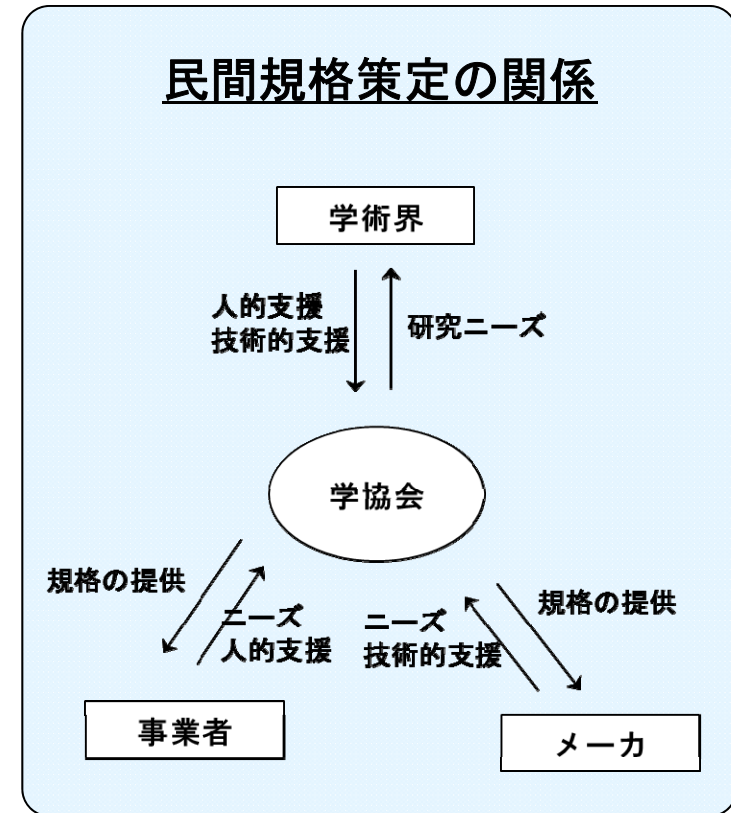
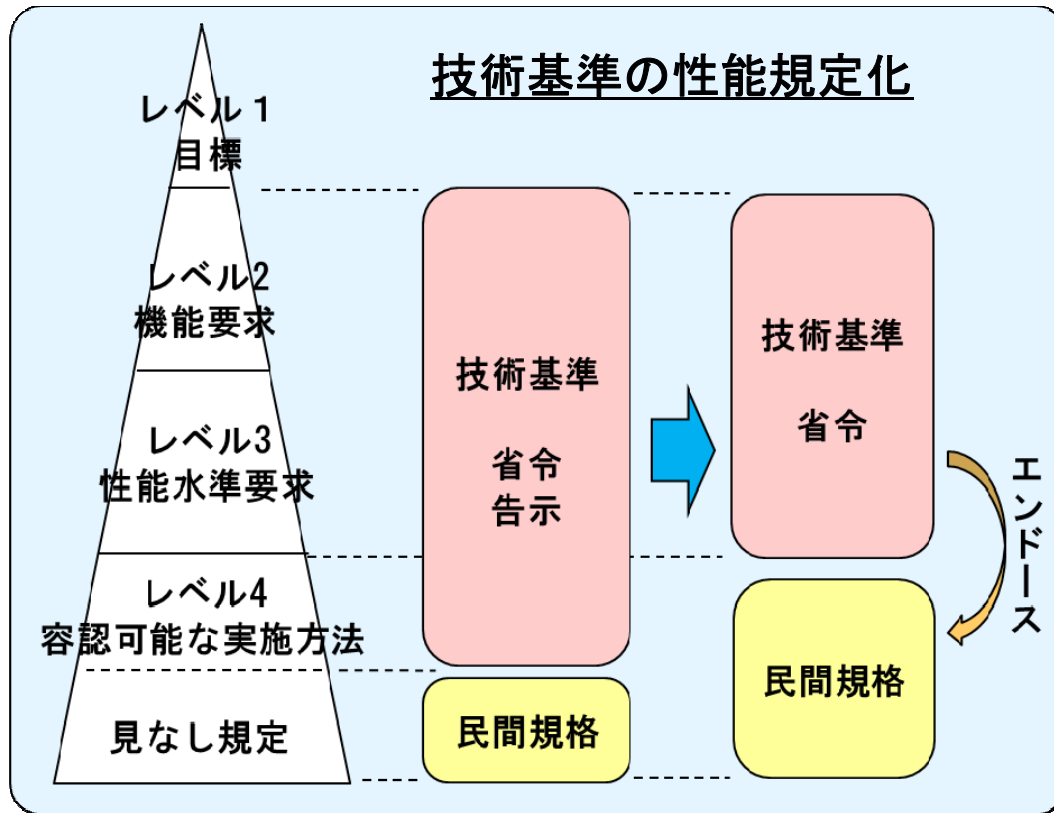

日本電気協会 原子力規格委員会シンポジウム
パネルディスカッション

原子力の安全性向上と 規格基準の活用について

2016年6月7日

電気事業連合会 原子力部長
尾野 昌之

1.技術基準の性能規定化と民間規格の活用(1)



○設備に要求される機能や性能を達成する手段は多種多様。技術基準で手段を限定せず、選択の自由を確保。



○技術基準の性能規定化及び民間規格の活用。

○民間規格活用のメリット

- 民間規格の改訂により、最新知見の取り込みが可能
- パブコメを通じた規格基準の透明性の確保

○事業者にとっての民間規格の必要性

- 事業者の自主的安全性向上の取り組みの推進
- 国の規制に対し、仕様規定としての具体化・活用

自主的安全性向上の取り組みの観点
(福島第一事故からの反省)

- ① 深層防護（5層）による安全確保の強化
- ② 規制の枠組みにとどまらない安全性向上の推進
- ③ 世界に学ぶ安全性向上活動の強化

リスクガバナンスの枠組みに沿ったリスクマネジメントの強化が必要

2.学協会の活動状況

○学協会の活動状況

➤ 幅広い規格の策定

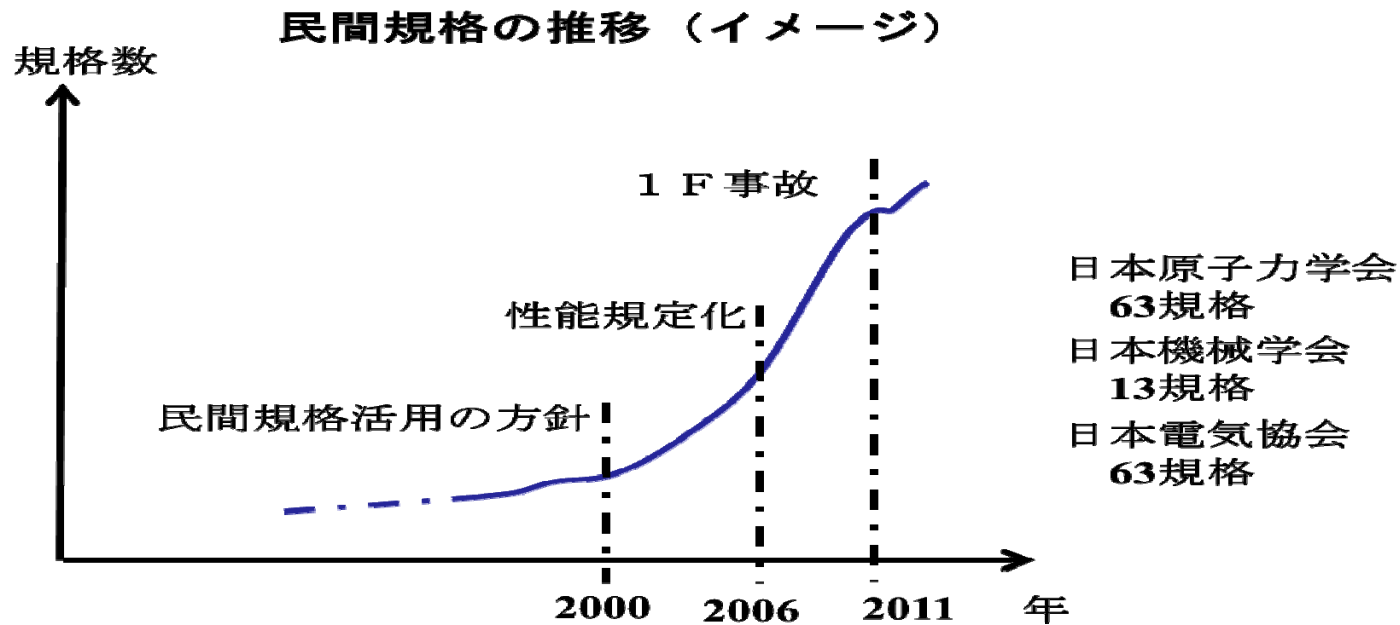
- 原子力発電所の建設、運転、保守等、原子力全般に亘る規格を策定(原子力学会63、機械学会13、電気協会63)

➤ 新規制基準への対応

- 新規制基準審査及び再稼動審査を踏まえ、昨年度実績で、21規格を発行(原子力学会5、機械学会6、電気協会10)
- 「原子炉構造材の監視試験方法」(2013年追補版)の技術評価が実施され、規制委員会で初エンドースを実施
- 規格の品質向上として、既存規格の誤記チェックを優先度を踏まえ実施

➤ 再稼動申請・審査の効率化に資する規格の早期策定

- 再稼動の審査状況を取り込み、新規制基準に対応した規格を体系的に整備



○学協会への期待

- 再稼動審査の効率化に資する規格の早期制定
- 科学的知見の反映、国際的動向の整合、規定の科学的根拠の明確化
- 事業者の自主的安全性向上の取組み推進のための民間規格整備